

アフリカビジネス事情

アフリカの医療と運輸に貢献する官民パートナーシップ

インド洋に面するケニアの町モンバサは東アフリカ最大の港町です。モンバサ港より荷揚げされたコンテナは大型長距離トラックでケニアの首都ナイロビ 600km を経て、内地国のウガンダ、南スーダン、ルワンダ、ブルンジ遠くはコンゴ民主共和国まで陸路搬送されます。モンバサからウガンダの首都カンパラまで 1200km の主要幹線路上に毎夜、長距離トラック約 3000 台が停留し、その運転手を顧客目当てとする宿場町が約 47 箇所存在します。運転手相手のホテルや飲み屋が乱立する宿場町はまた HIV エイズ感染のホットスポットでもあります。家庭から長期間離れて移動するトラック運転手は HIV エイズ感染率の最も高いリスク集団と呼ばれその感染率が国平均の 2 倍以上高い国もあります。

これらの宿場町の数箇所に今回取り上げる NGO ノーススターアライアンスが運営するロードサイド・ウェルネスセンター（RWC センター）が在ります。海上輸送用コンテナを改造し診療所と HIV エイズのカウンセリングセンターを併設した RWC センターはトラックが到着する時刻から深夜まで開業し運転手や周辺住民の医療診断やエイズカウンセリングサービスを提供しています。

陸上輸送関係の労働者やその周辺経済の健康管理の向上を目的とする RWC センターは、オランダに本拠地を置く国際 NGO ノーススターアライアンスにより設置・運営されていますが、その発端は国連世界食糧計画とオランダの運送会社 TNT エキスプレスがマラウイで始めたアセスメント調査でした。緊急食糧援助の搬送に必要なトラックの数がマラウイで不足している理由を調べたところ HIV エイズ感染によりトラック運転手の数が減少している事が明らかになったのです。感染症などの健康被害による陸上輸送関連労働者の数の低下に危機感を持った国連食糧計画と TNT エキスプレスは共同で 2006 年に NGO ノーススターアライアンスを設立、現在東南中央アフリカ 9 カ国 22 箇所に RWC センターを運営しています。センター数が最も多いケニアでは主要幹線路上 8 箇所に RWC センターが設置されていますがその内 4 センターは日本政府の草の根無償基金によるものです。すべての RWC センターのコンピューターは幹線医療トランスファーシステム（COMETS）でネットワーク連携されており、COMETS が来訪患者の診断・治療情報を RWC センター間で随時共有することができる電子ヘルスパスポートの役割を果たしています。国境を越えた患者の情報共有を可能にすることで一 RWC センターで診断・治療を受けた運転手が次のセンターでその治療を継続することができるようになりました。RWC センター以前は HIV エイズ、糖尿病や結核など継続して治療や投薬が必要な運転手は薬を持ち運ぶか投薬を諦めるかの選択に迫られていました。このことは一労働者の健康だけでなく道路上の安全にも影響を及ぼします。現在ノーススターでは陸上輸送関連の労働者が安心して治療や投薬を受けることができるセンターの設置・運営だけでなく、運送会社やトラック運転手への健康維持と交通安全に関するトレーニングのパッケージを開発し、健康と安全に関するリンクの強化に努めています。

6 年前に一国連機関と運送会社が始めたノーススターアライアンスは現在約 70 の陸上運輸サプライチェーンに関連する行政、民間、労働組合そして NGO のネットワークにまで広まりました。ノーススターのワーキングモデルは官民パートナーシップの好事例として大学院経営学の授業にも取り上げています。ノーススターでは将来的には民間企業のスポンサーを募り個々の RWC センターを運営していくサステナビリティモデルを構築中です。アフリカ大陸におけるビジ

ネスの根幹である陸上運輸は今後さらに重要性を増してくることからノーススターアライアンスのヘルス・交通安全分野への貢献がますます必要とされてくることでしょう。

ノーススターアライアンスのホームページ : <http://www.northstar-alliance.org>

2012年6月杉本寛子